84

本日の新聞論調（第六百三十號）内閣情報部　一五・九・二九（日）三〇（月）

内容目次

△日獨伊三國條約
一、米ソと三國同盟（報知）
一、崇高なる理想（都）
一、熱烈なる首相の放送（國民）
△米の禁輸擴大と東亜共榮圏（讀賣）
△太平洋の新事態（報知）
△獨伊對英戰の今後（朝日）
△閣僚の補充
一、閣僚の補充に際して（朝日）
一、閣僚の補充と翼賛首腦（日日）
△經濟新體制の促進（日日）
△技術院問題の考察（朝日）
△金融市場と資金放出（朝日）
△蠶絲政策確立の急務（國民）

×　×　×

△日獨伊三國條約

一、米ソと三國同盟（廿九日付報知）

日獨伊三國同盟の成立は歐亞兩大陸に於ける新秩序建設の聖業を妨害する第三國にとつて一の冷嚴な教訓であり、金鐵の防塞を意味する。然し米が果して其傳統的な對外驕慢の態度を清算する程の雅量と先見を持合するものであるかどうか。若し今後に於ても從來の言動を續ける場合忽ち日本の立場と激突し三國同盟に物をいはしむる重大局面を誘發することを深く心せねばならぬ。次にソ聯であるが、差當り日ソ不可侵關係の成立を見るに越したことはないが、此際同盟條約の意義を把握しその路線に沿ふ立場を作ることがソ聯にとつて最も安全な行きかたであることを率直に看取しなければならぬ。遠慮のないところ三國同盟は對日大包圍圏を內外から突破する態度を顯現したものである。三國同盟によつて示現された世界の政治地理的戰略的新情勢を大觀して世界歷史の宿命的進路に步調を合せることは彼等自ら生きる唯一の道であることを認識してかかるべきである。

一、崇高なる理想（二十九日付都）

三國の意圖する所が萬邦をしてその處を得しめ、各民族共存共榮の實を擧ぐるに足る世界新秩序の建設にあることは條約前文に明記せる通りで、三國が手を携へてこの崇高な理想に邁進せることに對し大なる喜びと誇りを感ずる。ハル長官がかかる條約の締結は充分承知してゐたことであると言へるは負け惜しみの氣味があるが、一面米國の僞らざる本音でもある。

對日通商の全面的廢棄も考慮されてゐるといふが、それは米國にとつても痛手とならう。旣に覺悟を決めた以上恐るる必要はない。國民が政府に信頼し、株式市場、生絲市場の如き何等不自然の動きを示さざりしは大國民的態度といふべく、行路には幾多の難關があるが、彼岸には洋々たる光明あり、その光明を望んで邁進する所に國家興隆の大道が拓ける。

一、熱烈なる首相の放送（二十日付讀賣）

日獨伊同盟の成立に際して行つた近衞首相の放送は、現時の非常時局に對する國運打開の積極的施策が三國同盟に至るべき必然性を說き、これを樞軸として展開さるべき帝國の前途には「民族の運命を賭すべき重大問題が橫つてゐる。然し我々は積極的に邁進して光明の一路を踏み拓かんとするものである」といふ國民的決意を披瀝した感激に充ち氣魄に燃えたものであつた。政治と外交を指導するのは政府の責任であり、政府を助けて國策を完遂せしめるのは國民の義務であるが、國民をして一身を捧げる覺悟をなさしめるには、當局者の政治的働きと適切な呼びかけがなければならない。この點からしても近衞首相が新外交への發足に際して、烈々たる氣魄を率直なる言辭に盛つて廣く國民の心胸に愬へたのを多としたい。

一、米の禁輸擴大と東亞共榮圏（二十九日付讀賣）

米國は對支借款成立に引續き屑鐵の全面的禁輸を決定した。共に我國を牽制する意圖なる

事は明瞭である。然も日獨伊同盟に對してハル長官の發した聲明の如く米國は益々經濟的壓迫を強化するは必至で早晩日米通商關係は斷行一歩手前迄推進められる可能性は十分である。これが對策は大東亞自給自足經濟圏の建設を速かに最も效果的に實現せしめんとする不動の國策に邁進する事のみである。而して大東亞共榮圏を資源的に見る時其豐富な點に於て全世界に勝り特に重要軍需資源にして世界の他の地域に求め得られないものを多く保有してゐる事は注目に値する。更に南方地域が世界主要米產地なる事實は食糧問題に惱む日滿支にとつて見逃す事の出來ない點である。若し又我國が生糸不買を賭して米棉不買を敢行したならば米國の困り方は日本に倍するであらう。要するに米國の報復手段に依る經濟的壓迫の如き、從前ならいざ知らず今日の我國にとつては殆ど何等の痛痒も感じない。我等は大東亞自給自足經濟圏の建設を目指し國內新體制に即應し、輕工業並に輸出產業中心の經濟から重化學工業中心の經濟への再編成を急ぐのみである。

△閣僚の補充

一、閣僚の補充に際して（二十九日付朝日）

近衛內閣の當初から新體制運動と睨み合せて空けてあるといはれた三相が補充された。幾任でもよかつた椅子だけにもとより政府施策の方嚮に變化のあることを豫想させない。三氏共皆大臣の經驗者であり練達堪能の士として些の不安はないが、それだけ內閣に新味も加へない。――↓

[illegible]人に人材がないといへばそれ迄だが共理念を推し進めると新體制の將來をも考へしむるものなしとしないのである。三大臣を舊政黨から採つたのは均衡のためであらうが均衡主義はやゝもすれば牽制主義となり前進力を相殺せしむる場合が少くない。時局は今や前古未曾有の難局である。三大臣の補充方針は組閣以來既定の事實で、今更問題とすべきでないにせよ、均衡主義は決して擧國體制でも何でもなく、「強力なる政治力と實踐力を集結せしむる」所以でないことを一言しておきたいのである。

一、閣僚補充と翼贊會首腦（二十九日付日日）

二十七日の閣議で決定した大政翼贊會の首腦の顏ぶれは所謂新體制派と目される政界の大物を揃へてゐるが二十八日には曾ての政黨政治家たる小川、秋田、金光の三氏を入閣せしめ又組閣以來存廢を檢討中の參議制も俄に復活する事になつたと傳へられる。我等は今回の人選補充に何等異論を挾むものではないが、其間新體制時代にふさはしからぬ勢力の拮抗摩擦が存在したやに傳へられる。單なる噂としても現內閣を信賴し新體制實現を待望する一般國民に與へる心理的影響は大きい。勢力の均衡は必要であるがそれのみに意を用ふる時は時宜に適した機構を完成し活用する事は出來ない。近衛公が新政治體制とは擧國一體的のものなる事を强調し乍ら尙且つ翼贊會の常任總務に政、民兩黨の主流人物を採らなかつたのも此點に在ると思ふ。一部に傳へられる如く政黨解消

と新體制運動着手の際に寄與した政界の長老連を何等かの優遇方法を以て報いる等といふ事は凡そ新體制の理念に合致しないもので斯かる事實は全くあり得ない事と思ふ。恐く此新三閣僚も虚心擔懐現内閣と新體制の爲に努力を惜しまざる人々であらう。政府と翼贊會とが其新陣容を十二分に活用し如何なる國難に際しても全國民の信頼の的となるやう此際特に希望する。

△太平洋の新事態と小林特使の措置（三十日付報知）

新東亞建設の設計に當つて是を具體的に云ふならば先づ英佛其他の殘存勢力を排拭し東亞諸民族の運命共同體を強化するにある。而して佛印當局が既に潔く我國の要求を入れた今日、蘭印當局が大東亞共榮圏の建設に協力するか否かゞ當面の重大問題である。然も蘭印當局が東亞再建に協力するといふ事は單に我國に原料物資を供給するに止まらず蘭印自體が其潛在的敵性を清算し太平洋の禍根を斷つ爲に欣然我國と協力するを要する。現に蘭印は英國亡命中の本國政府を通じ英國の利害を露骨に反映し、一方『宣戰せざる敵性國』として獨伊に惡質なる挑戰をなし殊に有力な援蔣勢力として大東亞の平和を攪亂しつゝある米國に依存してゐる今日、蘭印當局の政治的性格を嚴密に再檢討すべきである。叙上の意味に於て先に特派された小林商相一行に對し政府は即時引揚を命ずべきであると信じる。蓋し現在の儘の蘭印當局と交渉する事はそれ自體が本末顚倒の行爲に外ならぬからである。若し會商を繼續するならば太平洋の新事態に即し新觀點に立つ新訓令を與へるも一方法であらう。何れにせよ此際先づ蘭印當局の政治的性格を完全に清算せしめ然る後折衝を試みるも決して遲くない。

△獨伊對英戰の今後（二十九日付朝日）

獨伊對英戰爭が今後如何なる方向をとるか、特に決勝戰が間もなく行はれるか或は二年目の冬を越すことゝなるのか、世界各國の齊しく關心を有するところであるが特に我國としては今日一應の考察を加へおく必要があると思ふ。英側は六月末の佛降伏より正に三月を經過しただけ、獨軍の上陸に對し防禦準備が整つてゐると誇稱してゐるが、獨は英本土總攻撃のみによつて其死命を制せんと計ることなく他の方法例へば盟邦伊のエヂプト攻略、更に進んでスペインの協力または參戰による全地中海の制覇といふ倒英作戰の併行も現に考慮されつゝある如くである。伊は英領ソマリランド攻略後リビアよりエヂプト攻撃を開始したのであるが所謂速戰卽決を期し難く思はれる。されば獨伊兩國が能ふだけ速かに對英戰爭の勝利を完成せんとする一方、戰爭長期化の可能性をも考慮して萬全の策を講じつゝあることも、一應想像し得るのである。

△經濟新體制の促進（三十日付日日）

日獨伊同盟の締結は經濟界一般に對しても一種の不安、焦燥を思ひ切つて一掃させたと云はねばならぬ。既に國際經濟上に於ける過去の因縁は或は斷絶し若くは斷絶せんとしてゐる。然る上は當方から好んで事態を不利にする必要はないが最悪の場合を豫想して周到な對策を講じて置くことは同盟の誼からいつても帝國の行路からいつても絶對的に必要で

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ある。即ち政府當局は勿論の事、産業、金融、貿易界及我等消費社會も今日の決意を實踐に移し新時局に即應する行動をとらねばならぬ。同盟條約第三條に依て新しく生じ得る戰時の相互經濟援助の事は決定してゐるが、帝國今日の急務は支那事變を遂行しつゝ大東亞安定の經濟的基礎を築いて行く事である。即ち高度國防の充實であり其爲の生産力擴充であり單的にいへば經濟新體制を早く整備する事である。とにかく現狀では資源豐富な大東亞圈に自主獨往の新經濟を樹てるのは不可能である。されば經濟機能の刷新こそ一日を爭ふ重要問題であつて國の進むべき方向が定まつた以上、躊躇逡巡は最も禁物だと知らねばならぬ。

△技術院問題の考察（三十日付朝日）

技術院創設の問題は行惱んでゐるといふが、行政機構の移管といふ點では貿易省問題と似てゐる。貿易省問題と違つてゐると思はれる點は單なる役所の離合集散といふ問題ではなく行政に對する技術の獨立性といふことでもあり、場合により行政に對する技術の優位といふことすら考へねばならぬといふことである。現在商工行政では大體行政の優位のみが機械化され固定されてゐるが、これが技術乃至科學の發展向上からいへば大きな桎梏となつてゐることもハツキリ知る必要がある。乃ち技術並に科學の獨立性を認め、その中央的な研究機關が新によリ高い行政的な見地から創設されることの必要は今更いふを要しないので技術中央本部を打樹てることだけは決行されねばならぬ。↓

場合によつては各省所屬の現在機關と或程度留めておいても、從つて多少の重複の嫌ひはあつても中央機關は中央機關として必要であらう。その點が單なる行政機構の問題として現はれた貿易省問題と相違する所である。技術院が意外に重大問題であることにつき世の注意を喚起するとゝもに政府の勇斷を希望する。

△金融市場と資金放出（三十日付朝日）

全國金融協議會第一回會合は金融新體制といふよりは目前の金融對策に終始したようである。あるのは固より當然で、國際關係の新展開に伴ふ凡ゆる場合につき豫め對處しおくことは特に必要である。預金部資金二億圓を支出することも事前應急對策としては固より時を得てゐるが、この金融硬塞に應ずる政府資金放出といふ行き方は、何處か自由經濟の法則通りに流されてゐるといふ趣がないではない。資金引緊の傾向が一ケ年以來の慢性であることを考へると二億圓放出は輕々に見遁せない問題を含んでゐる。最近の引緊り氣味が政府の收入支出の「時期的喰違ひの結果」だけに過ぎないならば心配はないが、一方では物價水準から來てゐたり、他方では銀行の警戒氣分から來てゐるのであつたらその性質は餘程違つてくる。それはインフレの結果を縫ひつくらうために更にインフレを進める結果を生むといつた形であつて戒心を要する。當面の情勢は文字通り金融界の「使命」といふものの面倒なことを要求してゐるが他方政府はこの金融界の問題が結局不況なりインフレなりの産業自體における問題の發展に他ならぬことを忘れず、不況對策インフレ對策そのものに就いて、徹底的であることを寸刻も忘れてはならない。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

△蠶絲國策確立の急務（二十九日付國民）

日獨伊同盟成立による今後の國際情勢變化について最も問題となるべきものの一として生絲の輸出問題がある。現在當局の企圖してゐる根本方策として傳へられるものは第一に内需の増進第二に、新市場の開拓、第三は蠶絲關係機構の確立であるが、第一の内需増進の方法としては他纖維との混織と新規用途の發見であるが、之には他の對策と矛盾する點が少くない。纖協による切符制の存在などその一例であつて切符制の存在は當業者が相當な經濟的負擔を負ふのみならず更に煩雜な手續きを要し、これがため新規需要は兎角手控へ勝ちとなつてをり、また人絹、スフその他の工聯に加入してゐないものは切符制のため生絲を消費することが出來ないといふ現狀である。從つて若し切符制を中止したならばこれとは反對に全面的に各方面の新規需要が現れるべきことは火をみるより明かである。その他の方面に於ても新規需要を開拓する餘地は十分あり、之を達成するためには切符制度の中止など當然考慮さるべき問題であらう。内需增進について先づかゝる問題の檢討こそ先決問題である。第二の新市場開拓も國際關係のデリケートな現在餘程の困難が伴ふであらうが從來の方策を十分檢討してかゝる必要がある。第三の機構の統制についても斷乎たる態度をもつて臨むべきである。從來の如き一時を糊塗するが如き態度をすて蠶絲國策確立に邁進すべきことが必要だ。

△其他―（略）―「英獨空爆の活教訓」―（二十九日付中外）―「陸相の訓示」―（二十九日付都）

82

外國宣傳情報第一號　　内閣情報部九・三〇

―ニューヨーク・タイムス上海特電（二十五日）（朝鮮總督府遞信局聽取）

ハレツト・アベンド發―（第一信五十語缺信）この壓迫にはソウエートが反日行動に出る可能性に就ての暗示と、日本がドイツ側につかなければヒトラーは、舊ドイツ植民地を除きイギリス帝國には實際上手をつけず、ドイツはオランダ、ベルギーの植民地を接收し、イタリーはフランス植民地の大部分を取るといふ條件でイギリスに休戰を提議するだらうといふ直接の威嚇が含まれてゐるといはれる。かゝるセンセイショナルな發展は、イギリス海軍を解放し、東亞に於ける日本の地位に對抗するアメリカ海軍との協同動作を齎すだらう、かくてドイツは過去三年間に日本が獲得したものの一部分を更に利得することになるとヒトラーの手先は松岡外相に告げたのである。この劇的行動に出たドイツの動機は、日本が即時香港、新嘉坡を占領し、それから濠洲、新西蘭を攻撃することを日本に[illegible]ることにあることが明かである、さう出來れば殆んど必然的に合衆國を對日戰に捲込み、自然アメリカの海軍、飛行機、軍需品による對英援助を封鎖することになるであらう。この峻烈なドイツの態度に直面した日本は、東京官邊内幕筋よりの報道によれば、現在の[illegible]勢が少くとも合衆國との間に危險な緊迫狀態を齎し、或は戰爭に迄形勢を悪化させるかも